

事業効果の発現状況

指標①【耐震補強が必要な処理場施設の
うち耐震補強された施設の割合】

◆事業の効果（狩野川流域下水道）

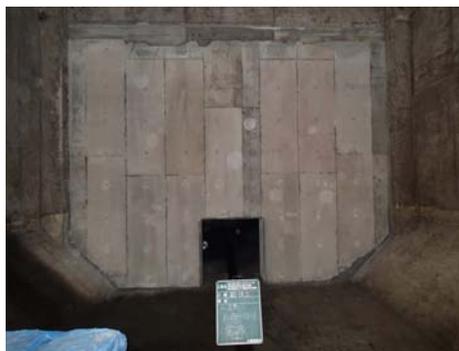
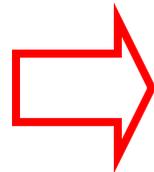
狩野川流域下水道 東部浄化センターは、昭和60年に供用開始し既に30年が経過し、老朽化が進んでいる。

また、地震に対する耐震化を有しておらず、平成25年度から26年度にかけて、水処理棟の耐震補強工事を実施した。これにより地震時においても、本来の機能を確保できる性能となり、また現行耐震基準に合致した耐震化が図られた。

水処理棟（反応タンク）耐震補強工事

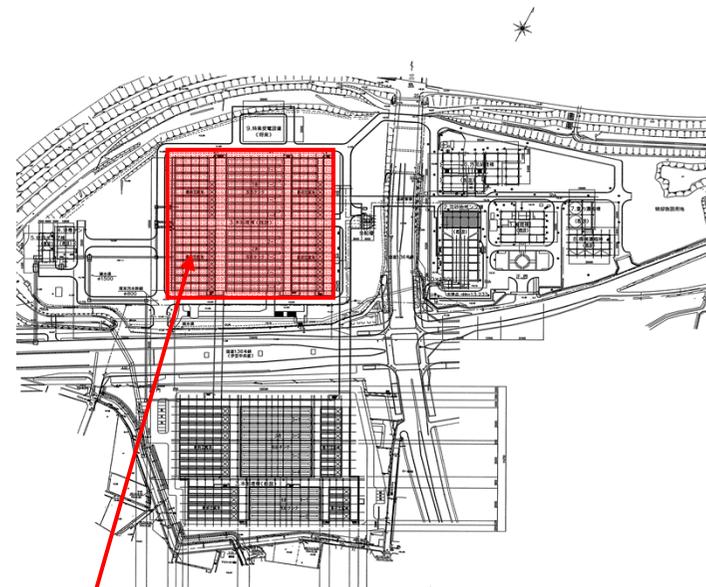


工事着前



工事着後

狩野川流域下水道東部浄化センター平面図



水処理棟耐震補強工事 A=11,200m²

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

事業効果の発現状況

指標②【処理場に係る施設及び設備の 改築更新された割合】

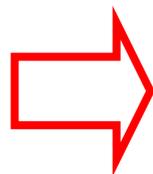
◆事業の効果（狩野川流域下水道）

狩野川流域下水道における西部浄化センターは、平成6年に供用開始し既に22年が経過し、老朽化が進んでいる。平成26年度から27年度にかけ、水処理機械設備の改築更新工事を行い、機能停止を未然に防止するとともに、持続的な下水道処理を確実に確保することが出来た。また、省電力化が図られ、維持管理についても軽減が図られた。

水処理機械設備（反応タンク）改築更新工事

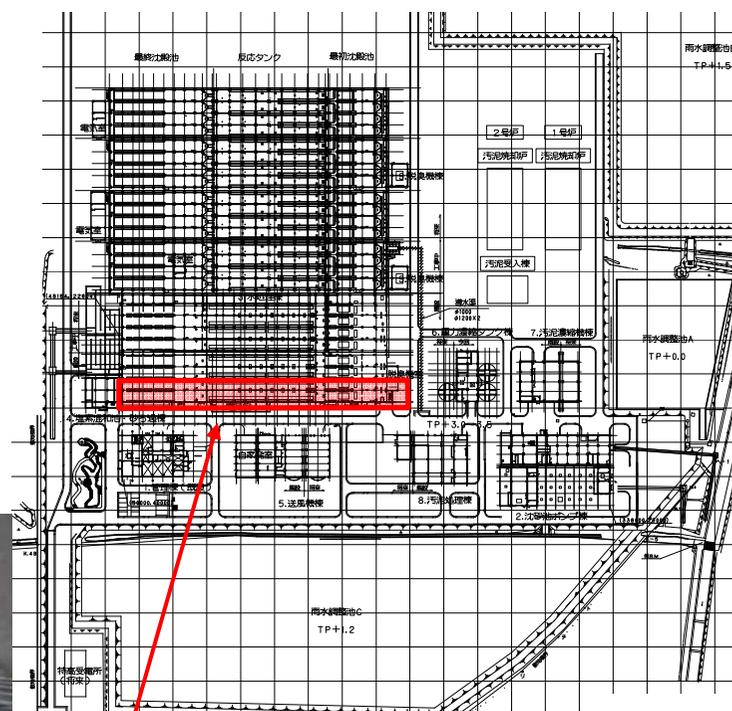


工事着前（セラミック散気板式）



工事着後（メンブレンパネル式）

狩野川流域下水道西部浄化センター平面図



水処理機械設備改築更新工事